

実態を把握する方法の一つとして、アンケートを実施しました。

児童は一年間で2回取り組みました。

1回目、4～6年生は4月に実施した「川崎市学習状況調査（意識調査）」の結果を活用しています。1～3年生は9月に実施しました。

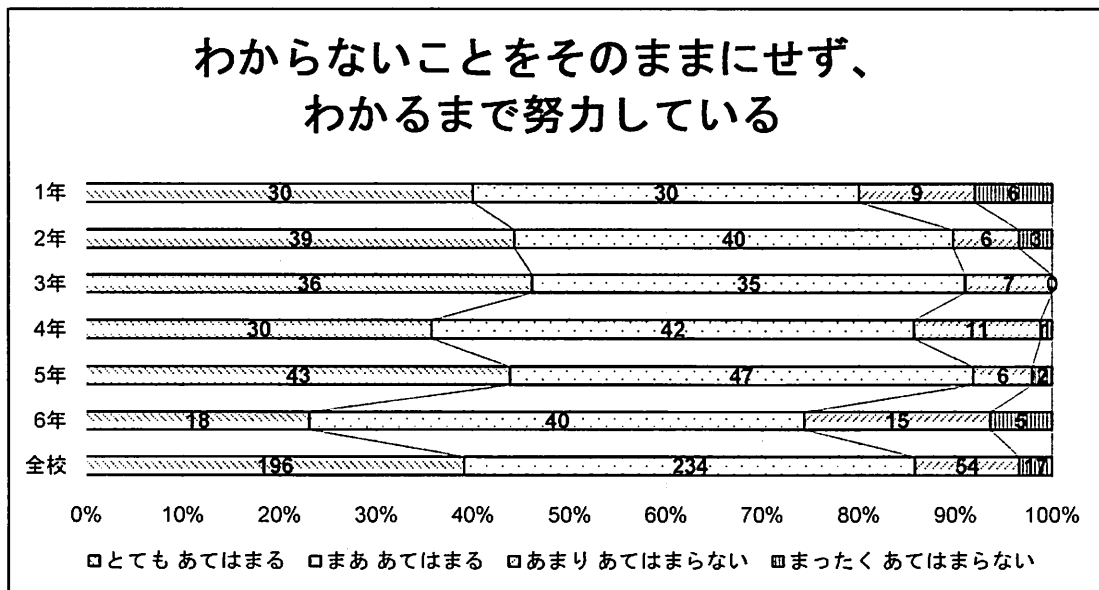
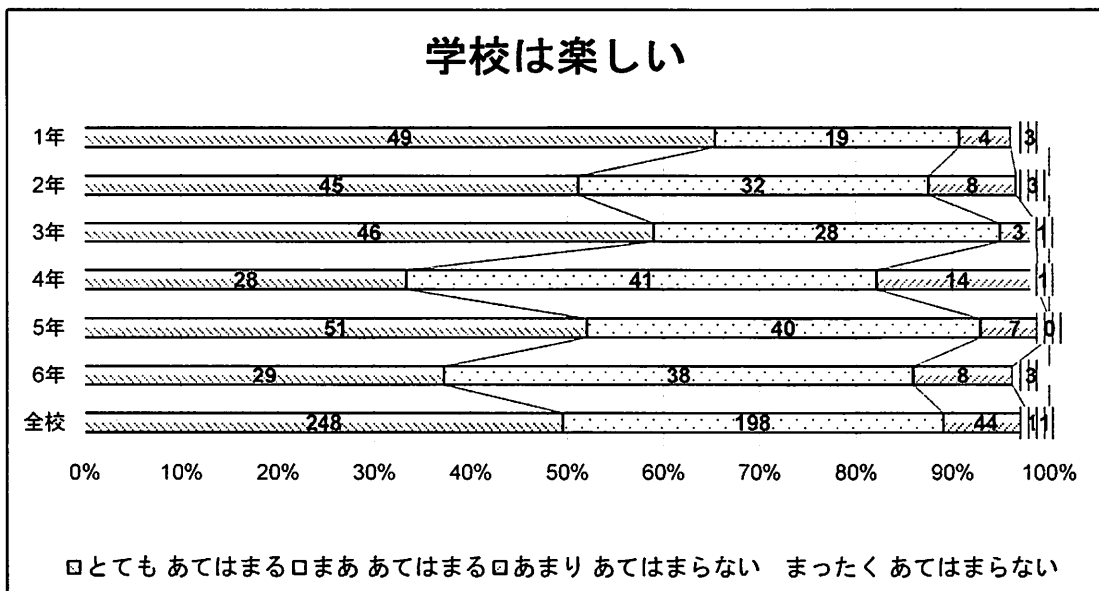
2回目は、1月上旬に実施しました。

P.3,4に掲載しているグラフは、基礎的汎用的能力の4項目から1つずつ抽出した2回目の結果です。＊詳細は「学校説明会」の資料参照

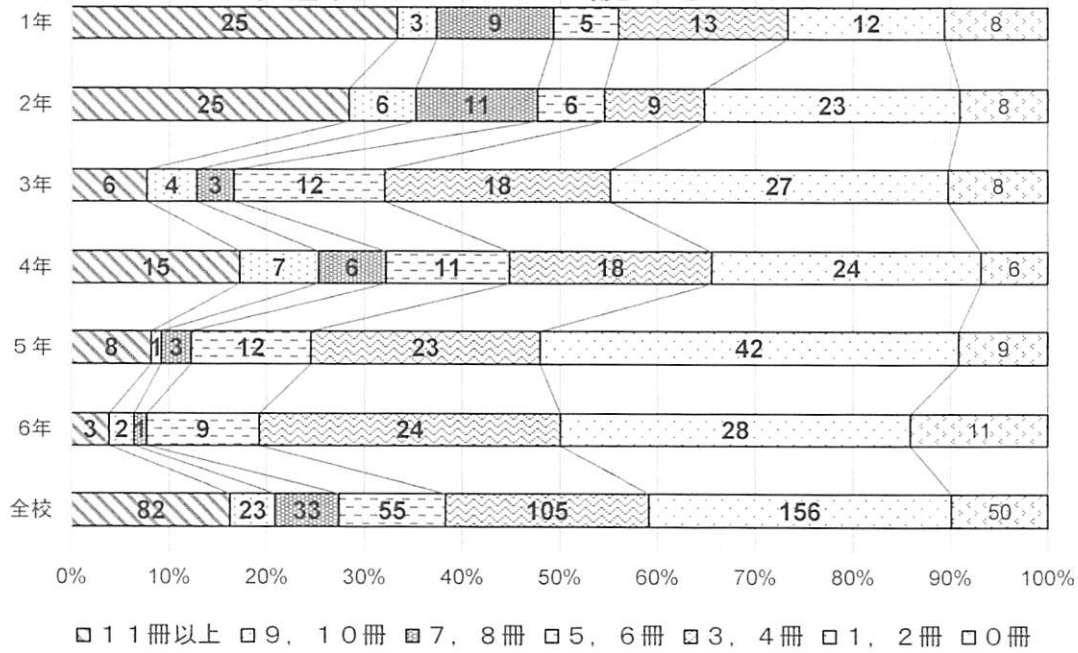
P.5～7は、各学年の1,2回の結果を示しています。1回目実施後、教職員の研修会を設定し、各学年の結果を分析して重点を決め、改善への手立てを考えて教育活動を進めました。日々の手立てを経ての2回目になります。2回目実施後も、今後につながるよう振り返りを実施しました。

P.8は、保護者・運営協議委員会の方に12月に取り組んでいただいた結果です。

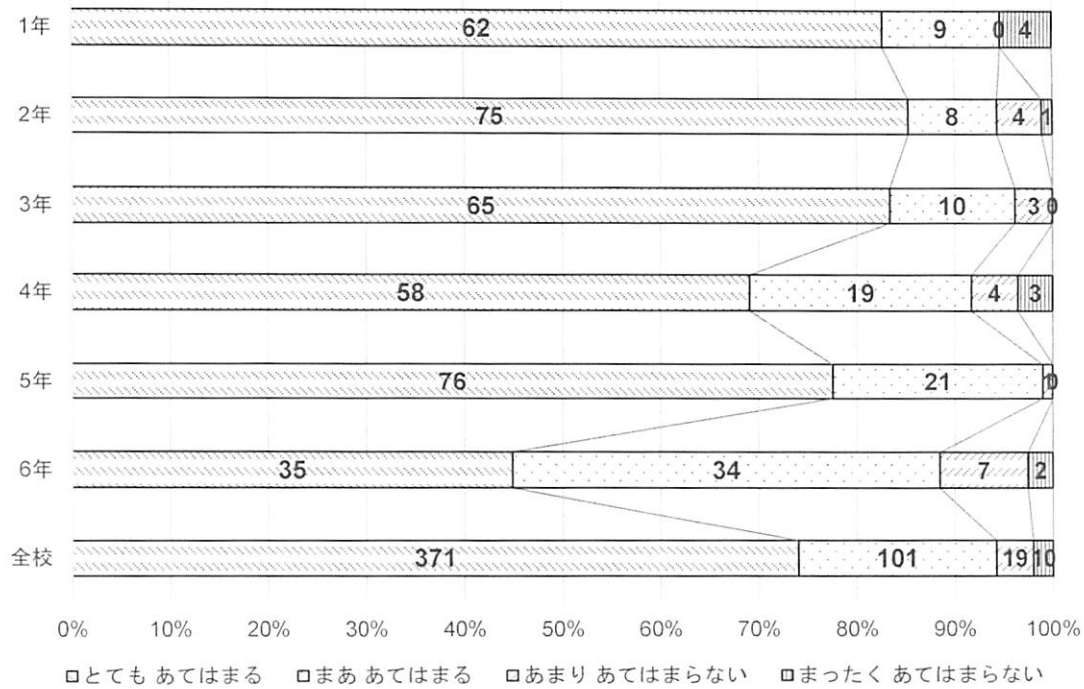
基礎的汎用的能力	質問内容
人間関係形成・社会形成能力	★学校は楽しい
	何かしてもらったときありがとうが言える 私は、友だちのよいところやがんばりを認めて伝えあっている
自己理解・自己管理能力	当番や係の仕事などについてうげんめい取り組んでいる
	自分のよいところがわかっている ★わからないことをそのままにせず、わかるまで努力している
課題対応能力	みんなの前で、自分の考えを発表することができる
	繰り返しをし、同じ失敗をしないように考えて行動している ★あなたは、この1か月の間に本を何さつくらい読みましたか 勉強は大切なことだと思う
キャリアプランニング能力	学校で学んだことは、大人になった時に役立つと思う
	★小田のまちがすき



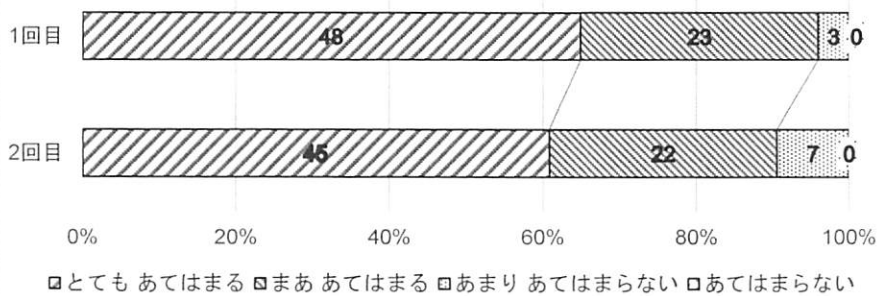
1か月の間に 本を何さつくらい読みましたか



小田のまちがすき



1年 何かしてもらったとき ありがとうと言える



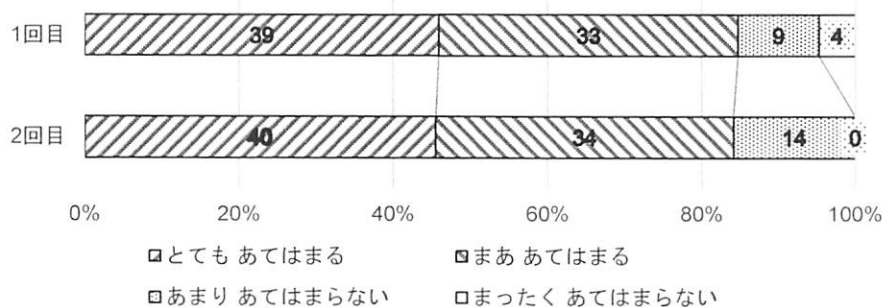
<1回目の結果から>

当番や係活動など初めてのことが多く、意欲的がんばっている児童が多い。よく読書もしている。積極的に活動する姿を褒めて認めることで心地よさを感じられるようにして、感謝の気持ちをもって、言葉が発せられるようにしたい。

<2回目を振り返って>

全体的にみると「あてはまる」の割合が高く、日常的にも「ありがとう」と言える児童がほとんどである。伝えることが当たり前になってきたからこそ意識的でなくなっていると思われる。そのため、今後はお世話になった上級生や先生方、保護者などに感謝の気持ちを伝える機会を増やしていきありがとうの気持ちを持てるようにしたい。

2年 振り返りをし、同じ失敗をしない ように考えて行動している



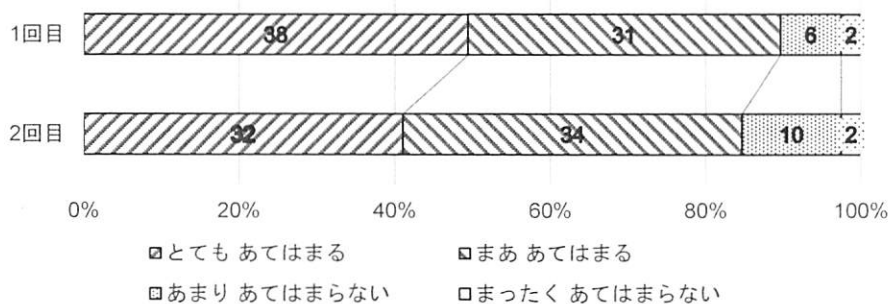
<1回目の結果から>

児童のがんばりを取り上げて、認めていきたい。また、話型を教えることで自信をもって話せるようにしていく。さらに、日々の日記活動を継続することで、順序立てて話したり、説明したりする力をつけ、友だちと好ましい関係が築けるようにしていく。

<2回目を振り返って>

少しずつ、何かトラブルが起きたとき、自らを振り返れるようになってきた。話型を教えることで、状況やその時の自分の気持ちを話せるようになってきた。引き続き、順序を表す言葉を使う等、順序立てて話せるようにしていきたい。

3年 私は、友だちのよいところや
 がんばりを認めて伝えあっている



< 1回目の結果から >

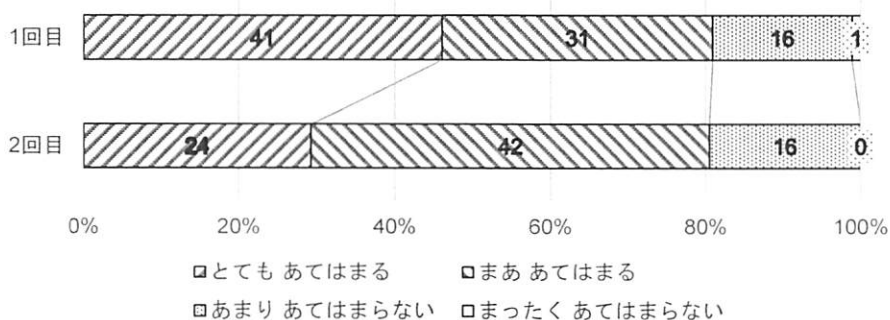
共生*共育・学級会・道徳の授業などを中心に、友だちのよさを見つけたり、互いにかかわりあうことの楽しさを感じたりできるようにしていく。



< 2回目を振り返って >

自分以外のことも気にすることができるようになり、友だちのできていないところに目が向くようになったため、結果が下がったと考えられる。悪いところではなく、よいところに目が向けられるように友だちのよさを伝える活動を帰りの会で取り入れる。

4年 私は、友だちのよいところや
 がんばりを認めて伝えあっている



< 1回目の結果から >

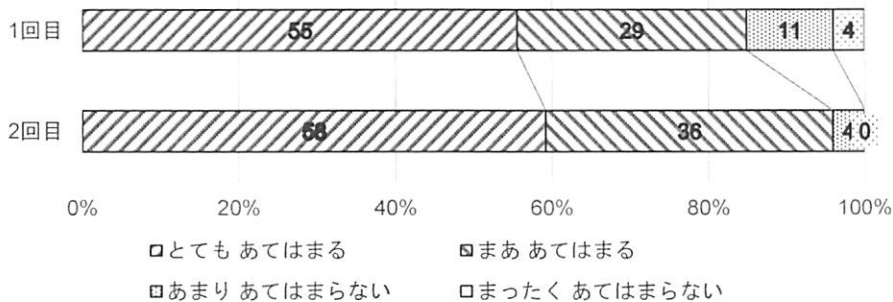
一年間に取り組むべき「共生*共育プログラム」は7時間。学級の児童の実態を捉えて、実施していく。友だちのよさに気付いたり、仲間と心地よい関係が築いたりできるように



< 2回目を振り返って >

肯定的な回答の割合は変わっていないが、自分を客観的に見られるようになったため「とてもあてはまる」が下がったのではないかと考えている。普段の様子では、互いに認め合える場面は増えたが、感情的になってトラブルになってしまうことがある。成長したことを具体的にほめたり認めたりしていきたい。

5年 私は、友だちのよいところや
がんばりを認めて伝え合っている



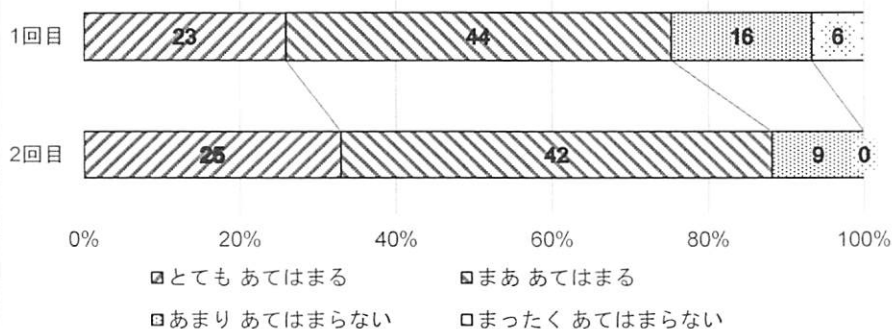
<1回目の結果から>

「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と感じている児童がいる。学習や行事、委員会活動や実行委員、係活動などを通して、互いのがんばりを言葉にして伝え合うということを重視していきたい。

<2回目を振り返って>

肯定的な回答の割合が増えたのは、互いのよさを認め合う活動を常時行うようにしたことや、児童のがんばりを受け止め、励まし、共有してきたからだと考えている。

6年 私は、友だちのよいところや
がんばりを認めて伝え合っている



<1回目の結果から>

「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と感じている児童の割合は昨年度と同じぐらい。「全員がわかる授業に！」を心がけて、特に学習の中で認め合えるようにしていきたい。

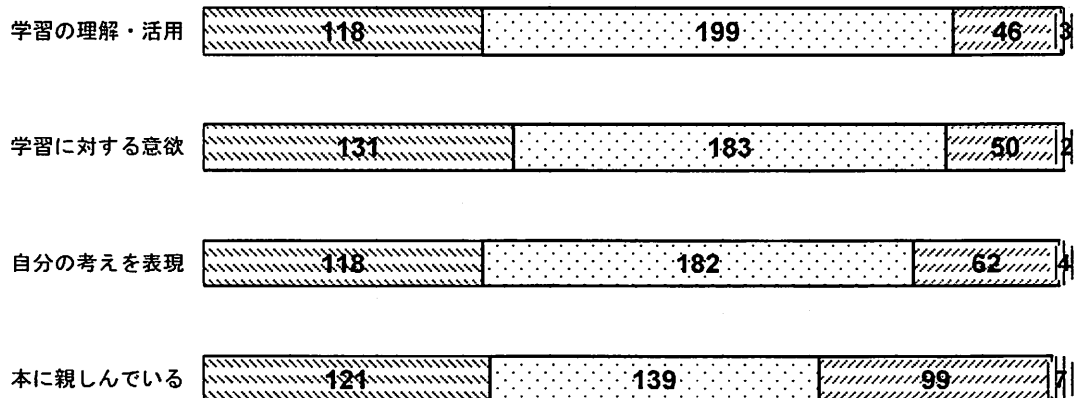
<2回目を振り返って>

「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の人数が1回目と比べると減った。総合、学年集会など子どもたちが互いに声をかけ合ってがんばる機会、助け合い励ます機会をつくってきた結果だと考える。

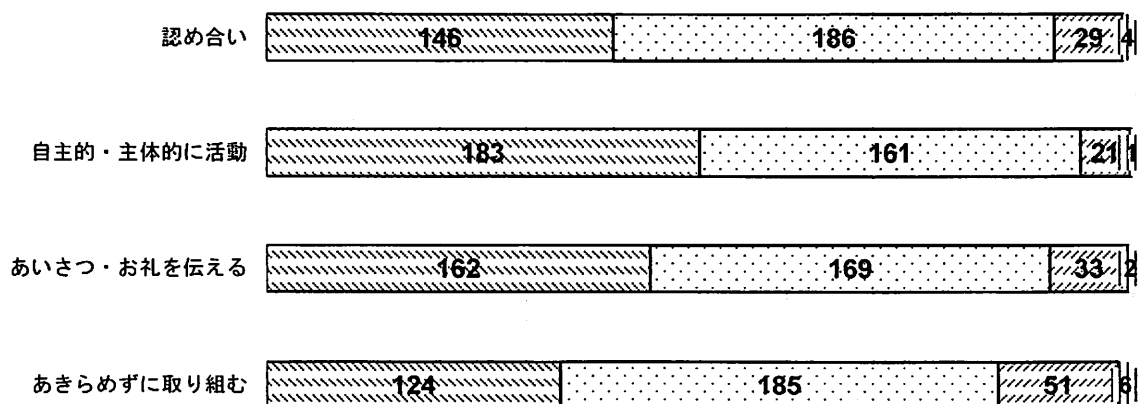
卒業の日まで、総合や行事など、子どもたちが自分たちで考え行動できる時間を大切にしていきたい。子どもたちを見守りながらがんばりをほめていきたい。

令和6年度教育活動に関するアンケート（保護者・地域 366名）

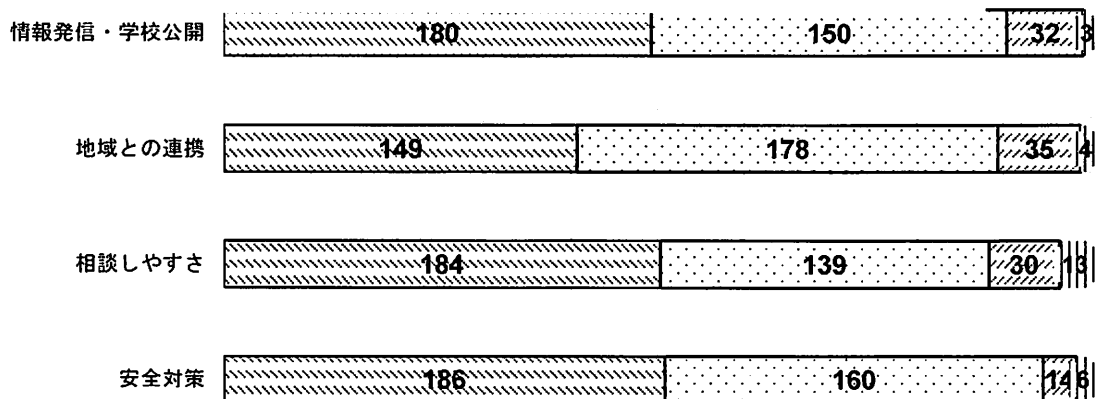
〔確かな学力の育成〕



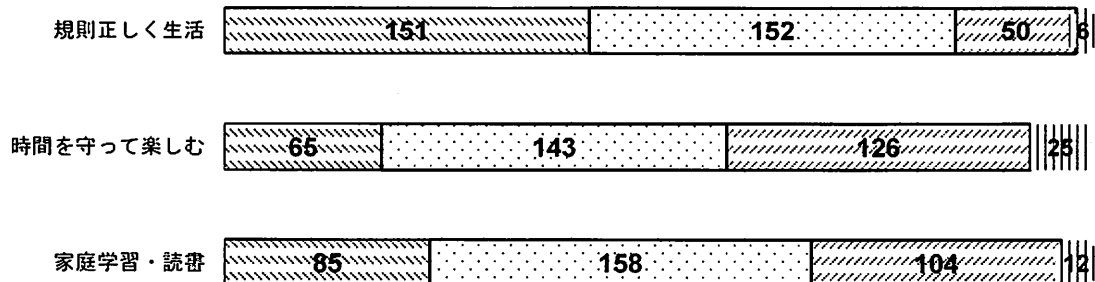
〔豊かな心とたくましい実践力の育成〕



〔地域に根ざした安心・安全で信頼される学校づくり〕



〔ご家庭での様子をお知らせください〕



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

そう思う
 やや思う
 あまり思わない
 そう思わない